

モミジガサ (*Cacalia delphiniifolia*) の増殖法の検討

戸澤一宏

Consideration of way to multiply of *Cacalia delphiniifolia*

Kazuhiro TOZAWA

Abstract : As for the way of *Cacalia delphiniifolia*'s multiplying, it reviewed about the seed, the shining bud.

When multiplying from the seed, there is possibility of a great deal of multiple but it finds that it takes time by harvest¹⁾.

Therefore, it reviewed about the condition of the multiple by the shining bud and it reviewed about the optimum at the shining floor and so on.

As a result, that it is possible to do young plant production with good efficiency by shining ear's having 2 buds of axillary buds and doing a quickset and doing the processing to cover with the vinyl for 2 weeks, and so on, after the shining floor does Kanuma soil + burning chaff, a shining bud was confirmed.

要旨：モミジガサの増殖方法について、種子、挿し芽について検討した。種子からの増殖の場合、大量増殖の可能性のあるものの、収穫までに時間がかかることがわかっている¹⁾。そこで挿し芽による増殖条件について検討し、挿し床などの最適条件について検討を行った。その結果、挿し穂は腋芽を2芽つけて挿し木を行い、発根剤の使用・挿し床は鹿沼土+焼き籾殻で行うことにより、効率のよい苗生産ができることが確認された。

1 はじめに

モミジガサはシドケとも呼ばれ、癖が少なく天ぷら・お浸し等利用方法も多彩で人気の高い山菜である。また市場では高価格で取り引きされており、これからの特用林産物として期待されている。しかし、現状では栽培が行われているのは東北地方の一部だけで、産地化すれば十分に採算のとれる作物である。

この有望なモミジガサに関して、山梨県ではほとんど栽培されていないのが現状である。

そこで、モミジガサ栽培の第1歩として、モミジガサの増殖について検討した。増殖法は収穫までの期間が短い挿し芽とし、苗として完成されたものを基準とし、挿し芽の成功率の高いものを良とすることとした。

2 試験方法

基本的に挿し穂は腋芽2芽を用い、下部の腋芽の葉をとり、その部分を挿し床に挿すものとする。

2-1 挿し芽の部位の検討

成功率に対する挿し芽の部位の影響について検討した。部位Ⅰは頂部5cm、部位Ⅱは頂部を除いた上部、部位ⅢはⅡの下部を用いた。

2-2 発根剤の影響

成功率に対する発根剤の影響について、検討を行った。用土は鹿沼土単用・挿し芽の部位は試験条件2-1のⅡの部分、使用した発根剤はルートン(α-NAA)を用いた。

2-3 挿し床の構成

成功率に対する挿し床の影響について検討するため Table-1 に示すような挿し床について検討した。挿し芽の部位は試験条件 2-1 のⅡの部分で行った。

3 結 果

3-1 挿し芽の部位の検討

Table-2 に成功率に対する挿し芽の部位の影響及ぼす影響について、結果を示す。

Table 2 Result of Examination

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
Top	60	53	7	88.3
Upper	80	63	17	78.8
Lower	70	41	29	58.6

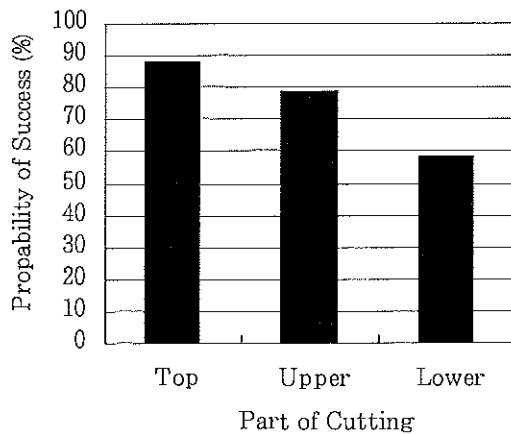


Fig. 1 Effect of Part of cutting on Propability of success

これらによると頂部を用いることにより、成功率は高くなるが、その他の部位に比べて頂部の数は少ないため、部位Ⅱも用いると、より大量生産の可能性がでてくると思われる。

3-2 発根剤の影響

Table-3 に成功率に対する発根材の及ぼす影響について、結果を示す。

Table 3 成功率に及ぼす発根剤の影響

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
Control	50	42	8	84.0
NAA	50	45	5	90.0

発根剤を用いた方が成功率が高くなっている。発根剤

をつける手間はかかるが、より計画的に苗を生産するためには必要だと考えられる。

3-3 挿し床の構成の影響

Table-4 に成功率に対する挿し床の影響及ぼす影響について、結果を示す。

Table 4 Result of Examination

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
I	50	31	19	62.0
II	50	26	24	52.0
III	50	40	10	80.0
IV	50	44	6	88.0

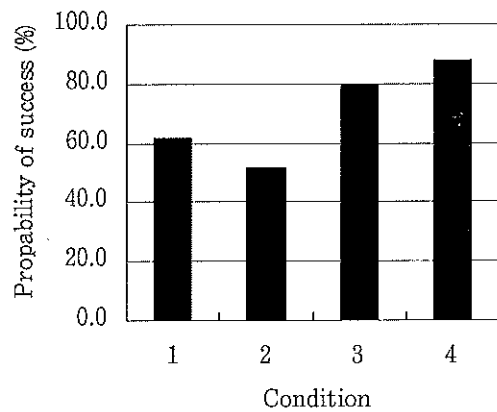


Fig. 2 Effect of Part of cutting on Propability of success

鹿沼土単用よりもプロミックス (10%vol)、さらに鹿沼土の底部に焼酎殻を入れた方が、より効率的に苗の生産が可能である。

4 考 察

モミジガサ苗の挿し芽による生産に関する諸条件について検討したところ以下のような条件で行うと効率的な生産ができることが得られた。

1. 挿し芽に有効なのは頂部を用いることであるが、頂部に近い部分は、成功率が比較的高いため利用可能である。

引用文献

- 1) 佐藤博文・須田邦裕：秋田県林業技術センター研究報告, Vol 9, (2002).